

7 北朝鮮核兵器開発の狙い—体制保証のため？

武貞秀士

〈要 旨〉北朝鮮の核兵器開発疑惑は、ウラン濃縮型核開発計画、中東との核開発協力関係の有無について不明な点があり、まだ解決を見ていない。北朝鮮が最終的に核兵器開発計画を完全に放棄するのかを考えると、核開発の目的に触れないわけにはいかない。体制保証確保のためか。通常戦略の遅れを確保するための大量破壊兵器なのか。あるいは、他に狙いがあった核保有宣言をしたのか。

本稿は、北朝鮮の核兵器開発の持つ狙いについて、北朝鮮の発言をもとに分析し、「朝鮮半島の分断状態の変更を目標に、核抑止力で米国の介入を阻止すれば、統一という最終目標に到達できる」という戦略があるという視点を指摘した。

日本を含む関係諸国にとり重要なことは、北朝鮮が核放棄を検討するとすれば、統一後になるという視点である。また、朝鮮半島で米国が軍事的役割を終えて、韓国社会の急速な変化と、韓国防衛の自主化が進むとき、朝鮮半島では軍事的緊張が高まるという事態もありうるだろう。

はじめに

東西冷戦が終結した直後の1990年代初め、北朝鮮に核兵器開発疑惑が浮上した。米国が解決に乗り出して米朝協議が始まり、1994年10月、米朝枠組み合意が成立した。こうして核兵器開発計画を北朝鮮が放棄する道筋ができたかに見えた。その後15年近くがすぎようとしているが、北朝鮮核問題は、まだ解決に至っていない。北朝鮮が全ての核兵器を放棄する決断をしたのか、ウラン濃縮核開発計画が存在するのか、北朝鮮と中東やパキスタンとの大量破壊兵器開発の協

力関係があるのかについて、まだ不明の点が残っている。

今後、国際社会が北朝鮮への支援を続けてゆくとき、北朝鮮は核兵器開発計画を放棄するという戦略的決断をするのだろうか。最も重要であることは、「北朝鮮は何のために核兵器を開発しようとしているのか」ということである。体制の保証¹を獲得するために核兵器開発をしているのであれば、北朝鮮が保証を確保したと判断したときに、核放棄をするだろう。現在の軍事力の弱点を補うために、核抑止力に言及しているのであれば、北朝鮮が通常戦力の不安を取り除いたと考えるとき、核放棄の戦略的決断をするのかもしれない。米国の脅威に対抗するための核抑止力であれば、米国が在韓米軍を撤退させ、米朝不可侵条約を締結し、核の不使用を約束したとき、自国への軍事的脅威がなくなったと考え、核兵器を放棄するのかもしれない。

核保有宣言をした北朝鮮に対して核放棄を迫るという課題に直面している国際社会は、北朝鮮の核開発の目的は何か、核兵器開発計画を完全に放棄する条件は何かを考えるとときがきている。本稿は北朝鮮の発言をもとに、北朝鮮が核開発をする真の狙いが何かについて、仮説を提示するものである²。

核疑惑から核保有宣言へ

北朝鮮が核兵器開発に関心を持った時期については、様々な見方がある。1950年6月に始まった朝鮮戦争の際、米国が核兵器を使用する可能性に直面して、核兵器に関心を持ったという見方がある。また、中ソ対立の狭間で、核開発により独自の自衛の道を推進したという見方がある。北朝鮮の指導者が体制維持のために、内部的に核兵器開発が有効であると考えたという見方もある。80年代以降、通常戦力の近代化の遅れを前にして、北朝鮮が大量破壊兵器でそれを

¹ 北朝鮮の公式報道は、「制度転覆をすべきでない」という表現を使っているが、それは、体制の保証を求めるとのことである。

² 参考にした『朝鮮中央通信』は、朝鮮中央通信社が配信し、朝鮮労働党と北朝鮮政府の立場を説明する同国の国営通信機関である。ホームページは、<http://www.kcna.co.jp/>『朝鮮通信』は、朝鮮中央通信社の記事の配信を受け報道する在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）と各国の報道機関に記事を配信する出版報道機関である。『朝鮮通信』を掲載している『朝鮮新報』のホームページは、<http://www1.korea-np.co.jp/>

補おうとしたという見方も可能だろう。当初、北朝鮮は電力事情改善のための原子力発電に関心があると見られていた。1950年代、ソ連の研究所に原子力技術関係者を派遣し、原子力発電技術の導入に乗り出した。冷戦時代には中国とソ連の狭間で自主路線を模索しながら、原子力発電技術の向上に努めてきた。

ところが、90年代初め、核兵器開発疑惑が浮上した。北朝鮮は核拡散防止条約（NPT）からの脱退宣言をしたが、米朝協議が進展して、1994年10月、米朝枠組み合意が成立した。米国が北朝鮮に重油を送ることを約束し、2基の軽水炉を建設し、黒鉛減速炉を解体するために朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）が発足し、核放棄へのロードマップができあがったかに見えた。

しかし、2002年10月3日から3日間、米国のジェームス・ケリー国務次官補が訪朝したとき、北朝鮮高官がいったん、ウラン濃縮核開発計画があることを認めた³。米朝枠組み合意のあと、朝鮮半島エネルギー開発機構の事業が進行しているときも、北朝鮮が核開発を進めていた疑惑がでて、米朝枠組み合意の前提が崩れるという展開になったのである。北朝鮮はすぐに、外務省談話を発表し、米朝不可侵条約締結を提議し、北朝鮮の核開発疑惑に関する報道を否定した⁴。

2003年4月24日、北京で米国、中国、北朝鮮の3者協議が開催されたとき非公式の場で、北朝鮮代表がケリー国務次官補に対して、「核を保有している」と述べた⁵。北朝鮮が核兵器開発計画の存在を認める路線に転換しつつあることがわかってきた。

これを受けて8月27日から北京で第1回6か国協議が始まったが、10月、北朝鮮は使用済み燃料棒の再処理が完了したことを明らかにした。米国は10月20日、ブッシュ大統領が多国間による北朝鮮に対する安全保障を提議した。緊張が高まるなか、北朝鮮に対する軽水炉建設事業は同年12月1日に中断することが決まった。

2004年1月、北朝鮮は米国の核問題、国際政治学の専門家を招聘して、寧辺の核施設を案内した。そのとき、北朝鮮外務省のスポークスマンは、「われわれ

³ 『朝日新聞』2002年10月17日（夕刊）。

⁴ 北朝鮮は外務省談話で核保有を全面的に否定した。『朝鮮通信』2002年10月31日。<http://www.kcna.co.jp/index-k.htm>。

⁵ 『毎日新聞』2003年4月25日。

は米代表団に核抑止力を展示した」と述べた。北朝鮮は核兵器開発の存在を対外的にアピールする行動を取り始めたのである⁶。2月、第2回6か国協議、6月には第3回6か国協議が開催された。しかし、北朝鮮は「制度転覆を意図している米国の政策変更が先決」という立場を崩さなかった。

2005年2月10日、北朝鮮外務省は、「米国の対北朝鮮政策への対処」という声明を発表した⁷。この声明のなかで、米朝協議の意味がなくなり、6か国協議への参加中断を宣言するとした上で、「北朝鮮は自衛のために核兵器をつくった。核兵器庫を増やす」と述べた。北朝鮮が公式に核保有宣言をしたのである。この声明で北朝鮮は協議を通じて解決してゆく基本方針も確認しており、「北朝鮮の制度を守るため」という点を強調していた。その1カ月後の3月3日、北朝鮮は「米国の北朝鮮の制度崩壊の意図を捨てれば、北朝鮮は協議に応じる」という外務省のメモランダムを発表した⁸。ここでは、米国の「悪の枢軸」発言をとりあげ、北朝鮮の「制度転覆をはかる米国」を非難している。この時期、北朝鮮は体制を守るという発言が目立った。

3月31日の朝鮮中央通信は、「我々が核兵器保有国になった今、6者協議は参加国が平等な立場で問題を解決する軍縮会談にならなければならない」として、6か国協議で米国の軍事的脅威を議論する提案をしている。同年9月、第4回6か国協議の第2回目の会議が開催され、9月19日、6項目にわたる6か国協議共同声明(9・19共同声明)が決まった。こうして、すべての核計画の放棄をめざして、6か国協議の関係国が動きだすと思われた。しかし、北朝鮮は米国が実施している金融制裁の解除に照準を合わせた。米ドル紙幣偽造、バンコデルタアジアにおけるマネーロンダリング問題をとりあげた米国が北朝鮮に対する厳しい姿勢を崩さなかったからである。北朝鮮は金融制裁解除と核兵器開発問題を直接絡ませる戦術を取り始めた。「米国による制度転覆への恐怖」を強調する北朝鮮と、核問題と金融制裁は別とする米国との間は、平行線を辿った。

⁶ 『朝鮮通信』2004年1月10日。

⁷ 『朝鮮通信』2005年2月11日。

⁸ 『朝鮮通信』2005年3月3日。

2005年5月、北朝鮮の報道には、「強力な軍事的手段を使用することもありうる」という内容が目立ち始める。例えば、5月31日付け労働新聞は、「迅速機動団（緊急展開部隊のこと）は制度転覆のための別動隊」と題する記事を掲載し、「わが軍隊と人民は、制度転覆を企図する米国の策動が、悪辣になり、強化されていることに対して、高度かつ革命的な、米国を思い知らしめる方法で対処する」と述べた。これは、「高度な技術で新しく開発した破壊力の大きい手段」という意味であり、核兵器を意味している⁹。この表現は、北朝鮮が核兵器を単に有利に交渉を運ぶために開発したのではなく、米国の戦略的意図を阻止するために使うことも辞さない兵器として開発したというニュアンスを含んでいる。

2006年7月5日、弾道ミサイルの発射実験をおこなったあと、北朝鮮外務省は、10月3日、「米国の脅威に対して、核抑止力確保の必須工程上の要求である核実験を実行する」との声明を発表した。「北朝鮮は国家の主権と生存権を守るため、自衛のために、戦争抑止力が必要になった。北朝鮮は将来、核実験を行う」と述べた¹⁰。「自衛のための核兵器を完成させるための核実験」という説明である。ここで重要であるのは、「米国の増大する脅威に対抗し、共和国と朝鮮半島全体の平和と安全を確保するため、北朝鮮の核兵器は抑止力として機能する」と述べたことである。北朝鮮の核抑止力は北朝鮮だけではなく、「朝鮮半島全体の平和と安定」のためと説明している¹¹。北朝鮮の核保有の狙いに関して、「朝鮮半島全体の安定のために、韓国から在韓米軍が撤退すべきである」と要求してきた北朝鮮の統一政策と関連していることがわかる¹²。核保有は「米韓同盟を解消

⁹ 『朝鮮通信』 2006年5月31日。

¹⁰ 『朝鮮通信』 10月4日付け英語版は、次のように報道している。The DPRK's nuclear weapons will serve as reliable war deterrent for protecting the supreme interests of the state and the security of the Korean nation from the U.S. threat of aggression and averting a new war and firmly safeguarding peace and stability on the Korean peninsula under any circumstances. <http://www.kcna.co.jp/index-k.htm>.

¹¹ 同上の記事は、核実験が米朝正常化までを狙ったものであることを認めている。The ultimate goal of the DPRK is not a "denuclearization" to be followed by its unilateral disarmament but one aimed at settling the hostile relations between the DPRK and the U.S. and removing the very source of all nuclear threats from the Korean Peninsula and its vicinity.

したあとの朝鮮半島統一」というシナリオと関連していることを、北朝鮮自ら認めているといえよう。

北朝鮮の報道にある「核抑止力」という言葉は、「朝鮮半島全体の平和と安定を守るための核兵器」を意味する。すなわち、北朝鮮が主張しているのは、北朝鮮という38度線の北半分の制度を保証させるための核兵器ではなく、「朝鮮半島全体の平和と安定を保証するための核兵器」ということから、これは在韓米軍撤退を求めるというニュアンスを含んでいると見るべきだろう。

北朝鮮の核実験の狙いと「核抑止力」の発言を、韓国ではどうとらえたか。10月9日の核実験発表について韓国で分析がなされている。「北朝鮮の核開発は、米国の北朝鮮敵視政策を撤回させ、米朝関係正常化をさせるためのもの」「体制の安全を保証させるため」「経済補償を確保するため」「内部的な体制結束のため」という説明である¹²。これは、「交渉に際して駆け引きをするための手段として核兵器を開発している」という解釈である。「非武装地帯の北半分の体制保証を獲得するための大量破壊兵器」との解釈である。

北朝鮮が核実験を敢行したあと、国連が制裁を決議したが、米国は核実験直後の12月頃から、北朝鮮との協議再開を模索し始めた。2007年1月、米国はベルリンで北朝鮮との2国間協議を開催した。翌月の2月、6か国協議が再開され、2月13日、6か国協議共同声明（9・19共同声明）を履行するための合意ができた。こうして「行動には行動で答える」として、北朝鮮が核兵器放棄の戦略的決断をするのを待つという路線が敷かれたのである。

「一撃で掃討し統一する」

6か国協議の関係国の努力が続く一方で、「核実験を行って核抑止力を持つに至った」と主張してきた北朝鮮からは、核抑止力をどう使うかという点を意識し

¹² 朝鮮半島の平和と安定のために、米国が在韓米軍を撤退させ、米朝正常化させねばならないというのは、北朝鮮の一貫した主張である。6か国協議において、朝鮮半島の非核化問題には、在韓米軍の戦力の問題を加えるべきであると繰り返し主張してきた。例えば、『朝鮮通信』2005年7月25日を参照。

¹³ 『朝鮮日報』（インターネット日本語版）2006年10月10日。<http://www.chosunonline.com/>

た発言がでてくるようになる。2007年にはいり、朝鮮人民軍創建日の4月25日、平壤では朝鮮人民軍建軍75周年の記念行事が開催された。核実験後に行われる初めての閲兵式であり、このときの朝鮮人民軍幹部の発言は重要な意味を持っている。金正日総書記は、錦繡山記念宮殿を訪問して、朝鮮人民軍陸海空軍部隊と朝鮮人民警備隊、労農赤衛隊、赤い青年近衛隊の閲兵式に参席した。このとき、朝鮮人民軍の金格植総参謀長（大将）は閲兵式での演説で、「もし、米帝国主義者がわれわれの自主権と生存権を少しでも侵害すれば、彼らを一撃で撃滅、掃討し、民族の最大の悲願である祖国統一の歴史的偉業を必ず成し遂げる」と述べた¹⁴。米軍の通常戦力を「一撃で撃滅、掃討」できる手段は、北朝鮮の旧式化した通常兵器ではなく、大量破壊兵器である。「朝鮮半島有事に際して米国が介入したら、核兵器の使用も辞さない」との意味になる。核兵器を使用した先にあるものについて、金格植総参謀長は「朝鮮民主主義人民共和国の安全が保たれる」とは言わず、「祖国統一が実現する」と述べたのである。

この金格植総参謀長の演説は、核実験をする前、2006年4月25日の朝鮮人民軍創建記念日に金英春総参謀長（当時）が行った報告と比較すればその違いは明らかである¹⁵。すなわち、「万一米帝国主義国が新しい戦争を起こしたなら、わが軍隊と人民は全ての潜在力を総動員する。侵略者たちは一人残らずわが祖国の土地から生きて帰れなくなるであろう」と述べた。核実験前と後の総参謀長の言葉のちがいがから、核開発計画の目的が単なる現状維持に止まるものではないことがわかる。金英春総参謀長は2001年4月25日に行った演説で、「万一帝国主義者がわれわれに戦争を仕掛けたら、わが軍隊と人民は、数十年かけてつちかった潜在力を総動員して殲滅的な報復打撃を加える。敵は悲惨な終末を迎えることになる」と述べている¹⁶。2002年4月25日、朝鮮人民軍創建70周年の金益 Chol・次帥の演説では、「わが軍隊と人民は、米帝国主義がわれわれの警告にもかかわらず、神聖な共和国の土地と海、空を0.001ミリでも侵犯するのであれば、

¹⁴ 『朝鮮通信』2007年4月26日の「朝鮮人民軍創建75周年閲兵式」特集を参照。

¹⁵ 『朝鮮通信』2006年4月25日の「英雄的朝鮮人民軍創建74周年祝賀中報報告会」記事を参照。

¹⁶ 『朝鮮通信』2001年4月25日。

無慈悲に殲滅して、祖国統一事業を成し遂げるであろう」と述べている¹⁷。これらの4つの演説を比較すると、「一撃で」「撃滅、掃討し」「祖国統一を成し遂げる」の3つの表現が同じ演説中ででてくるのは、核実験後の総参謀長の閲兵式の祝辞だけである。このとき初めて、「統一を目標にした核兵器」というニュアンスが出てきたといえる。

北朝鮮の核計画放棄をめざして米朝協議は続いた。9月1日から2日間、クリストファー・ヒル米国務次官補は、スイスのジュネーブで北朝鮮の金桂寛外務次官と会談し、北朝鮮がすべての核計画を申告すること、核施設を無能力化するための方法、北朝鮮をテロ支援国家として指定するリストから外す問題、敵国貿易法の適用を終了する問題を話しあった。その後、2007年末までに北朝鮮の核施設を無能力化する約束をすることについて、米国を中心に楽観論が広がった。しかし、ウラン濃縮核開発問題を申告対象に含めることを要求する米国と、拒否する北朝鮮との間の立場の違いが残ったままである。北朝鮮外務省のスポークスマンは9月3日、北朝鮮の現存する核施設を無力化するための実務的対策に合意し、米国がテロ支援国リストから北朝鮮を削除し、敵性国家貿易法による制裁を全面解除するといった政治的、経済的補償措置を取ることにしたと述べた¹⁸。北朝鮮が米国との関係正常化を急いでいることは明らかであった。

以上述べたように、北朝鮮の6か国協議と米朝協議での姿勢と、公式報道のニュアンスから、北朝鮮の核兵器開発の意図について、新しい視点が必要になる。朝鮮半島の分断状態の終結を目標にした北朝鮮が、核抑止力で米国の介入を阻止すれば、自主的平和統一という最終目標に到達できるという戦略を持っているという視点である。核抑止力を誇示しながら、朝鮮半島全体の統一が可能になるという計算を持った戦略があり、それに合わせた軍事力であるという見方は、これまでの解釈とどのように違うのだろうか。

¹⁷ 『朝鮮通信』2002年4月25日。

¹⁸ 『朝鮮通信』2007年9月3日。

現状維持の核—2つの解釈

北朝鮮の核兵器開発の狙いについては、さまざまな解釈が可能である。第一の解釈は、北朝鮮が外交交渉で有利に立って、相手の譲歩を確保して、有利な経済支援を獲得したり、安全の保証、体制の保証を確保したりするために、核兵器を開発してきたという説明である。北朝鮮は米朝協議や6か国協議が膠着状態のとき、強力な手段を行使するという発言をしてきた。また、北朝鮮自身、経済目的があることを認めて、ミサイル輸出により、外貨を得てきたことを認めている。2006年10月の核実験後は平壤の街に、金正日国防委員長を礼賛するスローガンがめだち、「核開発を指導した指導者」をアピールした。また、核保有国としての待遇を求める対外発言を繰り返してきたし、核保有によって中国やロシアから自立した兵器体系を持てるという計算が北朝鮮にあるだろう。核実験をしたとき、「100パーセント、われわれの技術で実施した」と発表した。ここには「中国、ロシアに依存しない兵器」というニュアンスがある。

この解釈は、北朝鮮が体制崩壊を回避し、38度線で分断されている現状を維持するという政治的な狙いを持って、核兵器開発をしたという解釈である。この解釈によると、北朝鮮が「体制保証を獲得できた」と判断したときに、核放棄の戦略的決断をするという可能性がある。「朝鮮半島の核問題はリビア型の解決で終わる」（体制保証と引き換えに核関連施設を全て提供するという戦略的決断を下すシナリオ）という展望はこの解釈に依っている。

韓国で10年間続いた太陽政策は、「北朝鮮が経済の困窮、体制の脆弱さを補うために、政治的目的で、核兵器を開発している」という上記の解釈に基づいている。金大中前大統領は、太陽政策について「北朝鮮の経済を韓国が掌握している。韓国に依存している北朝鮮は韓国を挑発しない」と述べている¹⁹。北朝鮮への支援により、朝鮮半島での紛争が回避されているという発想が金大中政権の政策の基礎にあった²⁰。

盧武鉉大統領は2004年4月にドイツを訪問したとき、「北朝鮮には核をあきらめ

¹⁹ 『朝鮮日報』2006年10月20日。

²⁰ 『朝鮮日報』2002年3月1日。

る用意がある」と述べたし、2005年6月、大統領が北朝鮮の閣僚級会談代表団と会合したとき、「金正日総書記が、朝鮮半島の非核化は金日成主席の遺言だと発言した点に留意している」と述べた²¹。2006年10月9日、北朝鮮が核実験を行ったと発表したときも、「北朝鮮は核をあきらめる用意がある」という見解を明らかにした。そして、金剛山観光、開城工業団地、鉄道連結の3大支援事業を継続した。この政策は、事実上の太陽政策であった。そこには、「支援を続ければ、核を放棄する時が来る」という見積もりがある。北朝鮮の核兵器は現状維持のための政治的手段と見ているからである。この見解は、「体制の維持、南北共存という現状維持のため、交渉手段として核保有を誇示している」という解釈である。

第二の解釈は、上述した第一の解釈で述べた体制保証の確保、経済利益獲得、現状維持という政治的狙いがあることを肯定しながら、もうひとつ、北朝鮮が軍事的な狙いも同様に重視しながら核開発をしているという解釈である。

韓国軍や在韓米軍に対して兵器近代化が遅れてしまった朝鮮人民軍は、劣勢を挽回する必要がある。米国や韓国の近代化した兵器に追いつくことは軍事産業の実情を考えると困難である。ハイテク化が遅れた通常兵器では、防衛できないと判断した北朝鮮が、軍事的な均衡状態を維持するために核兵器を開発したという解釈である。

確かに、米韓同盟が修復されて、韓国の国際的地位が上昇し、韓国軍近代化が急ピッチで進みはじめた80年代から、北朝鮮は核開発を急ぐようになった。北朝鮮は「米国の核の脅威、米韓軍事演習の脅威」を指摘してきた。これは、北朝鮮の核兵器には政治目的と軍事目的の両方があるという解釈であり、軍事力で現状維持を図る狙いがあるという解釈である。

この解釈に基づけば、北朝鮮は交渉の過程で核兵器の使用を示唆することがあるが、通常兵器の遅れを知る北朝鮮が、現状変更を恐れてのことであるということになる。米韓合同軍事演習や、在韓米軍と韓国軍の近代化を非難する北朝鮮の報道は、軍事的均衡が崩れることを恐れての発言であり、防衛的なもの

²¹ 『朝鮮日報』2006年10月10日。

であるという解釈になるだろう。

しかし、この解釈は、北朝鮮の兵器近代化の遅れが目立ち始める80年代よりも以前から北朝鮮が核兵器開発に関心を持っていたことを考えると、説明しきれない部分が残るであろう。

もうひとつの解釈

北朝鮮の核開発に関連する報道と発言で、「米国に対して核抑止力を維持する」という言葉には、二つの意味がある。ひとつは、米国の軍事攻撃を阻止するという意味である。もうひとつは、北朝鮮が「米国は朝鮮半島の民族内部の問題に介入すべきでない」と主張してきたことを考えると、朝鮮半島有事に際して、米国の朝鮮半島への軍事介入を阻止するという意味があるだろう。朝鮮人民軍は統一のための手段であると北朝鮮は規定しているので、統一に向けての動きが始まり、紛争が発生したとき、米国を中立にする狙いが大量破壊兵器にはあると見るべきである。朝鮮半島有事に際して北朝鮮が米国の介入を阻止するために、核兵器の使用を示唆するということは、北朝鮮は言及したことはないが、北朝鮮の発言と、統一政策、軍事戦略から読み取ることができよう。

米朝協議で有利な条件を引き出すため、経済利益を獲得するため、米国、韓国の軍事的圧力から防御するため、体制の保証、安全の保証のためという解釈では説明できない北朝鮮の狙いは、この第3の解釈を設けることで説明が可能である。中国との関係が緊張したり、韓国民の警戒が高まったり、米国の北朝鮮に対する姿勢が硬化したり、国連での制裁が決議されることが予想されるときでも核実験をしたのである。その行動の背後には、分断状態を終結し統一するための現状変更の究極的手段としての核戦略があると見なければならぬ。米国との核戦争を北朝鮮が想定しているというよりも、大陸間弾道弾を保有することができれば、米国が費用対効果費を考えて朝鮮半島有事に際して、中立的立場を維持する選択をするだろうと北朝鮮は考えるのである。米朝関係正常化を訴える北朝鮮が、米朝不可侵条約締結を提案したのは、米国を有事に際して中立化させる狙いからである。それは、在韓米軍の撤退を訴え、米韓軍事演習の

中止を望む北朝鮮の公式発言と矛盾するものではない²²。朝鮮半島の分断状態の変更を目標に、核抑止力で米国の介入を阻止すれば、統一という最終目標に到達できるという北朝鮮の戦略は、現状変更のための戦略である。

その意味で、北朝鮮の核兵器は、地域のバランスを維持するためのインド、パキスタンの核とは違う。旧ソ連やフランスの核とも違う。米国の核とパリティである必要はない。米国と共存しつつ、朝鮮半島有事に際して、米国を中立化させることができれば、必要にして十分な核兵器なのである。

以上の解釈が、第3の解釈である。この解釈は、交渉用であるという側面を否定はしないし、兵器近代化の遅れを補うという側面を否定しない。ただ、そのうえで、軍事的に利用できるという解釈であり、現状変更のための、統一のための核兵器であるという解釈である。この解釈によれば、北朝鮮の戦略の成否は3つの条件が熟す必要がある。すなわち、(1) 韓国社会の変化である。北朝鮮に対抗する意識の希薄化が進み、韓国防衛の装備が北朝鮮の軍事脅威に対抗するためのものではなくなる。(2) 在韓米軍撤退、米韓連合司令部の解体が進み、朝鮮半島有事で米軍が自動的に巻き込まれる状態ではなくなる。(3) 米国本土を攻撃できる大陸間弾道弾と核弾頭が完成する。この3つの条件がそろえば、北朝鮮の核戦略は完全なものになる。通常戦力で劣勢であっても、核兵器への「恐怖」で韓国を平和統一できるという戦略である。統一政策と絡んだ軍事戦略の一部としての核戦略を持った北朝鮮は、統一のときまで、交渉を続けるだろう。核開発疑惑が浮上したとき、北朝鮮が疑惑を否定し、やがて核開発を認めた。核放棄を約束したかにも見えてもウラン濃縮核開発計画の存在を否定し、外国からの支援が遅延しても、疑惑を完全に晴らすことなく、核実験を実施して、核保有宣言するにいたった。このプロセスは、このような3つ目の解釈により説明が可能である。

北朝鮮が核兵器を交渉用だけとは考えない背景には、韓国社会が北朝鮮に対

²² 「米国は、侵略的な対朝鮮政策を中止し、南朝鮮に北南対決をたきつけるのではなく、南朝鮮から米軍を撤退させるべき」だと主張した。『民主朝鮮』2008年5月27日の記事で、『朝鮮新報』（日本語ホームページ）2008年5月30日に掲載。<http://www1.korea-np.co.jp/sinboj/j-2008/04/0804j0530-00004.htm>.

する姿勢を転換し、米韓同盟を薄めるとき、南北対話は進めることができるという計算があるのだろう。韓国人の「自尊心」に関連した民族主義が浮上するとき、韓国社会では対米自立民族主義がでてくる。在韓米軍の有事作戦統制権に変化が起きるとき、米国の韓国への防衛約束に変化が起こる可能性があろう。韓国防衛に関して韓国の自主性を高めるとき、米韓同盟は変化し、米国の核の傘が永遠であるという保証はない。そのとき、北朝鮮の大量破壊兵器のみが突出して軍事的意味を持つという計算が北朝鮮にはあるのだろう。このシナリオの実現可能性が高いというのではないが、北朝鮮の報道から推測できる北朝鮮の戦略なのである。

統一政策を支える軍事力の中核に核兵器を据えている北朝鮮の核戦略は、北朝鮮をとりまく不確定な要素を考慮した戦略であるともいえる。北朝鮮の公的報道機関の報道から推測すれば、北朝鮮が計算している可能性のある不確定要素として次のことがある。(1) 米国の本土防衛に敏感な米国世論が、北朝鮮の大陸間弾道弾が米東部まで届くようになったとき、朝鮮半島への軍事介入をためらうかもしれない。(2) 核実験を終えてしまえば、米国は核兵器開発疑惑を解明する努力から核拡散防止策に重点を変えるかもしれない。(3) 北朝鮮が核弾頭と弾道ミサイルの射程を延長するとき、中国、韓国、米国、日本、ロシアの間で、地理的条件の違いが絡んで、北朝鮮の核戦略の解釈が分かれてしまうかもしれない。(4) 北朝鮮の軍事的脅威を日本が指摘するとき、韓国と中国は過去の歴史が絡んで日本の見解を支持しないかもしれない。(5) 北朝鮮の核兵器に軍事的な意味を読みとることが少ない中国、ロシア、韓国の北朝鮮政策と日本、米国の北朝鮮政策は違いが浮上するかもしれない。(6) 米韓同盟をどう発展させるかについて、今後の米韓双方の政権の政策によっては、同盟を解消する方向に向かうかもしれない。(7) 南北経済交流が進展して、南北の相互依存関係が進めば、南北が連合・連邦制を敷く時期がくるかもしれない。(8) 朝鮮半島の統一のための戦争を中国とロシアは支援する可能性は低いですが、戦争を回避するために北朝鮮が核抑止力使用を示唆するとき、中口は黙認して、米国の影響力低下をもたらす北朝鮮主導の自主的平和統一を黙認するかもしれない。

以上のような解釈と計算を北朝鮮がしている可能性はないだろうか。北朝鮮の公式報道に現れている論調を見る限り十分にありうることである。北朝鮮にとり北朝鮮主導による朝鮮半島統一は1948年の建国以来の最終目標であった。朝鮮人民軍が統一のための手段であると規定する北朝鮮が、米国、韓国との間で軍事力格差が拡大するという現実直面したとき、それを補う手段を開発する計画に手を染めざるを得なかった。それが北朝鮮の核兵器ではなかったか。

おわりに

本稿では北朝鮮の報道をもとに核兵器所有の目的について考えた。北朝鮮が単に朝鮮半島の北半分の制度保証を獲得するために、大量破壊兵器を開発してきたのではなく、「朝鮮半島全体の平和と安定」のために、大量破壊兵器を開発してきたことを指摘した。北朝鮮の核兵器開発の目的については、外交交渉のため、北朝鮮の制度保証獲得のため、食糧などの支援確保のため、米国の核兵器の脅威に対抗するためといった説明がある。

しかし、北朝鮮が米国は民族の問題に介入すべきでないと主張し、在韓米軍は撤退すべきであり、米軍が介入したときには、一撃で米国を撃退することができ、その先にあるのは統一であるという主張は、現状変更を想定していることを示唆している。核兵器を統一のために、米国の介入を阻止するために使うシナリオがあることを思わせる。

北朝鮮が何のために核兵器を開発しているのかという「意図」の問題については、軍事戦略に関する一次資料がないために説明が困難である。ただ、北朝鮮の公式の席での発言や報道から組み立てて、構成することで、推測することは可能であり、「統一政策の一部としての核戦略」であることを否定することはできないであろう。

1980年の労働党大会で提案した高麗民主連邦共和国構想は、自主、平和、民族大連合という原則は、米韓同盟の存続を想定していない。現在も北朝鮮は米韓同盟の破棄と、在韓米軍撤退を主張しているので、米韓同盟を廃棄し、韓国

の諸階層との連帯を通じた、南北の一体化を推進して、統一に向かうという政策を推進していると見るべきであろう。

この仮説が正しければ、日本を含む関係諸国にとり重要なことは何であろうか。

第一に、北朝鮮の核兵器の狙いについて、「体制の保証を確保するための核兵器」という視点のみでは不十分である。中国にはその見方が多いが、北朝鮮の核開発に軍事的な意味を読み取り、弾道ミサイルの脅威を合わせて解決することを考慮する日米韓の3か国の政策とは距離があるといわねばならない。この点は6か国協議における議論に関する今後の課題であろう。

第二に、北朝鮮が核放棄を検討するとすれば、統一後になる可能性があるのであるということである。6か国協議のプロセスのどの時点で北朝鮮が戦略的決断を下すのかを考えると、このことは重要である。朝鮮半島の今後を考えると、最悪のシナリオを考える必要がある。朝鮮半島の休戦協定の役割が終了し、米朝関係が正常化し、米韓連合司令部が解体されたあと、朝鮮半島に在韓米軍が存在しなくなるとき、米韓同盟はどうなるだろうか。韓国社会が変化し、韓国の国防体制はより多様な脅威に対処する体制に変化してゆくだろう。南北間の協力が進めば、やがて「連邦・連合」という形態や、「1国家・2政府」の形を南北が考えるときがくる。そのあと、朝鮮半島での有事に際しての米国の役割は、ますます低下するだろう。

第三に、北朝鮮の今後の軍事政策の重点は、潜水艦発射弾道ミサイル、大陸間弾道ミサイルの開発になるだろう。とくに、ミサイル技術の向上は北朝鮮にとって切実な課題となっているはずである。核開発計画を温存する必要がある北朝鮮は中東との軍事協力関係をさらに発展させる可能性がある。

北朝鮮に対する関与と支援の対策や、核放棄に至る道筋を議論するうえで、「統一のための核と考えている北朝鮮に核放棄を戦略的に決断させる方法は何か」という視点が必要になってきたのではないだろうか。